

1991.3.23 第5号

発行所 群馬県立高崎女子高等学校
同窓会
高崎市稲荷町20 電話(0273)62-2585
発行責任者 斎藤 民
印刷所 ほその印刷

わたしたちの同窓生

〈92周年〉

会員数 25,062名
在校生数 1,249名
平成3年3月23日現在



同窓会報

椎の樹



学校長 岡村 昇治

限りない本校の
発展を願って

このたび、県立富岡高校より、九十年の歴史と伝統に支えられ、二十一世紀に向かつて文武両面にわたって、めざましい実績と躍進を誇っている本校に着任し、同窓会・PTAの皆様をはじめ関係者の絶大な御支援、御協力を賜り、「行く川の流れ」にも似て、せわしく日を送っているうちに早くも一年の月日が経過致しました。

校長が今も猶、脈々と続いておられますが、まことに誇らしく頼もしい限りです。これまで本校に学んだ二万余千余の乙女たちは、それぞれ人生の黎明期とも言うべき多感な十代を、夢多き青春の理想を胸に秘めながら、学問に或いは自己の限界に挑戦するスポーツに取り組み、現在の社会のあらゆる分野に雄飛して母校の名誉を高め、また地元にあっても女性として立派な活躍の中で、母校の名を一層輝かしてあり、いずれの方々に對しても、深く敬服するところであります。

「朝夕窓に仰ぎ見る、榛名の山の高きかな」——夢多き乙女たちの歌声は、青春の郷愁を誘って、今日も澄みきった空に流れております。同窓生の皆様、在校生は先輩のあなた方をじっと見守っております。皆様一人ひとりの人生にとっても、まず「高女卒」のレッテルは生涯離れることにははずです。皆様の現在は本校に在学したというところから生まれたものです。そして母校は、いつまでも皆様の心の寄りどころであると思えます。是非ご自分の人生を悔いのないものとする努力を続けてほしいと祈っております。

創立九十周年記念式典が、昨年五月一日、多数の学校関係者臨席の下、厳肅な雰囲気の中で挙行され、その記念事業として松樹館の新築、棟間通路の建設、高女九十年史の刊行など、壮大な事業を終了させ、さすが高女同窓会ならではの感を強くしました。また、本年の九月八日には、



高女同窓生の親睦を計り母校との連繫を強くする為の同窓会報「椎の樹」を発刊いたしました。早稲田大学から早稲田大学まで5回の会報を皆様にお送り出来ず事になり喜びに堪えないところでございます。

高女同窓生の親睦を計り母校との連繫を強くする為の同窓会報「椎の樹」を発刊いたしました。早稲田大学から早稲田大学まで5回の会報を皆様にお送り出来ず事になり喜びに堪えないところでございます。

高女同窓生の親睦を計り母校との連繫を強くする為の同窓会報「椎の樹」を発刊いたしました。早稲田大学から早稲田大学まで5回の会報を皆様にお送り出来ず事になり喜びに堪えないところでございます。

ご挨拶

同窓会長 斎藤 民



祝賀会に
参列して

同窓会長斎藤民先生の勲三等瑞宝章の叙勲祝賀会が、平成二年九月八日(土) 新生会館(高崎神社)に於て盛大に催されました。



大会場は二百八十余名の参加者で溢れるばかりでございました。来賓の方々のお祝辞で幕を開け、記念品、花束贈呈の後、斎藤先生の謝辞の中で、先生が今日活躍しておられるのは、女子教育に對する高邁なご見識を持たれたお母様のご薫育の賜と、推察致しました。

年会費 1,000円に決定「総会」開かれる

講演：奈良部清満 教頭 平成2年5月1日 於椎樹館



5月1日母校開校記念日に同窓会総会が開かれました。風が強くあいにくのお天気でしたが多数の方の御出席をいただき、和気藹々の昼食会の後、吉村晴子副会長の開会のことばで始まり、続いて齊藤民会長の御挨拶、岡村学校長、清水PTA会長の御祝辞をいただきました。校内理事岡田俊子先生の役員紹介の後、齊藤民会長を議長として、各議案が審議されました。維持費について質問があり審議の結果、平成3年度より年会費1,000円と決定いたしました。最後に橋本節子先生の指揮により校歌を合唱し吉野烈子副会長の閉会のことばで、無事総会を終了いたしました。

生きる「こと」——その難しい時代に——

講演を聞いて 清水 弘子 (高14回)

一、山上碑
 こやかな奈良部先生の国の特別史跡「山上碑」からは、じまのお話にひきこまれ、佐野の三家健守命の孫である黒売刀自を母とし、大児臣との間に生れた放光寺の長利僧が母の為に記した墓碑である山上碑は、碑の東脇にある古墳と共に、私達が後世に伝えなければならぬ国の宝であり、このような歴史的土壌に育ち学ぶ事が出来た事の意味を再考せねばと先生のお話から、おもい知らされたのでした。

二、化粧・破簾恥
 その昔の「化粧する」という意味が神に近づく為に、神聖な行為として、変身をする為に行なわれた事、そして、それ故に「玉手箱」はその大事な化粧道具を納め、自分自身の外には、その変身するさまを絶対見せられない、それはそれは大事な箱であった事など、そのことは、あまりにもオーブンでありすぎる現代

社会に身を置く我々のウィークポイントになり、時として破簾恥にもつながりかねない危険性を含む事等、変身の第一手段の化粧—即ち紅をひく事の神秘的なあれこれ、化粧の本質にせまるお話をいただきました。

さて、山上碑にも記されている「刀自」ですが、古代ではそれは女性につける名称で、その家の中心となる人、戸主でもあり、尊敬をこめて呼ばれたようです。現代日本の文化はギャルの文化ともいわれているようです。報道の自由で種々のニュースが氾濫する中、生徒達に女性としての本質をみきわめ、人間らしく生きる



「花の一回生」
 高女の前身・群馬県高等女学校は、明治三二(一八九九)年五月一日、高崎町大字本町一七九番地の迎賓館・春露館(現・中部公民館)を仮校舎として開校された。公立高等女学校としては全国で三十番目、埼玉・千葉・茨城・神奈川の各県よりも早い設置で、勿論、本県では最初の高等女学校であった。

入学を許された八二名の一回生は、銀杏返しや日本髪に髪を結い、和服姿で入学式にのぞんだという。勉強ができる」希望に胸をときめかせていたであろう彼女達の様子を、松樹館に保存されている『学籍簿』がひっそりと伝えている。

まず、どこから入学したかというところ、高崎町とその周辺(豊岡村・佐野村・片岡村・大類村・六郷村・滝川村・岩平村)が五五人と一番多く全体の六七%を占めていた。その他、安中町とその周辺(板鼻町・秋間村)六人、群馬郡(室田村・倉田村・烏洲村)四人、富岡町とその周辺(一ノ宮町・妙義町・丹生村)五人、前橋市とその周辺(前橋市・南橋村・富士見村・宮城村・横野村・金島村)六人、吾妻郡(中之条町・原町・沢

松樹館だよ

教頭 奈良部清満先生

田村・高山村)四人、佐波郡(名和村)一人、という内訳となる。二回生以後と比べると、利根川の西側が圧倒的に多く、オール西上州という感じであるが、校舎をはじめ寄宿舎等の諸施設が不十分であった事と無縁ではなかったであろう。次に、彼女達の家庭の状況であるが、当時の社会の反映として、『族称』が記載されている。土族の子が二一人、平民出身が六一人である。士族出身者は、他府県に本籍のあるものが七名いたが、軍人・中等学校教員・裁判所執達吏など全国の公務員であった。郡役所・役場・教員・郵便電信局などの公務員は、全体で二〇人いた。家業を見ると、高崎町を中心に商業が四人、酒造業など製造業が五人、金融業が五人と商業の町らしい特色がある。農村部では農家がほとんどで二〇人を数える。公務員・商工業・農業を合計すると七四人と全体の九〇%を占めた。その他では、医者四人、弁護士二人などが目立つ。

入学者の生年については、誕生日の記載はなく、年月のみが記されている。明治一七一年生れが一四人、一八年生れが三七人、一九年生れが二四人と十八年生れが中心で、前

後、三力年九一%となる。最年長者は明治一四(一八八四)年生れの満一七歳、最年少者は明治二〇年生れの満一七歳であり、両者の間には五歳もの隔りがあった。最年少者は中途退学しているが、最年長者は本科三年卒業後補修科に進み、二二歳で卒業している。

こうして入学してきた一回生であるが、無事本科三年を卒業できたのは五〇人、全体の約六〇%に過ぎなかった。中途退学者は、入学後一年未満が一三人、二年目が一六人、三年目三人の合計三二人にのぼった。

退学理由として、父兄の転勤に伴う退学者が五人、病気の為が五人、学業不振の者が一人、計一一人については明らかである。しかし、三分の二を占める他の二一人については退学理由は不明である。父兄の転勤に伴う退学者のうち三人は、東京と横浜の女学校へ転校している。病気の為にやむなく退学した五人の中には、病死退学一名という悲しい記録がある。なお、一回の卒業



第1回から6回までの入学者学籍簿(右)と浅田のぶ(内村鑑三の娘)の画いた「梅に鶯」(絹本)の絵。

で死亡するという悲劇に見舞われた。治療には手が尽されたと伝えられるだけに、当時の医療水準の低さが偲ばれる結果であった。ともあれ、このような大事件に揺れ動いた学園に平静な情態が戻ったのが六月であり、卒業式にこぎつけたという事であった。

波乱の一回卒業式で晴れの卒業証書を授与された者は二八人であった。先に、一回生で本科卒業生は五〇人と誌したことがあまりに大きな隔たりがありすぎる、と読者諸姉がお気付きであろう。二八人と五〇人という数字の違いについては、入学後の生徒の学年配当という問題に触れる必要がある。即ち、明治三二年の一回生八二名は、第一

学年に五四人、第二学年に二八名と学年別に分けられたのである。分け方は、一学期末の試験の成績と入学時までの学歴の二つの要素を勘案した様子である。つまり、成績優秀で高等小学校四年修了者が二年後に配属されたのである。三年後の明治三五年に四年制の高等女学校卒業という生徒が生まれたのはこのような事情からくるのである。二学年に配属された二八人は心身共に誠に健全であったとみえ、全員がそろって卒業している。中途退学した三二人は、一学年に配属された五四名の中から出ていたわけで、創草期の教育に携わった教師の焔眼には敬意を払わざるを得ない。

二八名の一回卒業生からは、日本最初の女性心理学者(日本女子大卒、コロンビア大学の学位取得)新井(原口)つる女史、内村鑑三の長女・浅田(日永)のぶ女史、賢母の誉高かった近藤すみ女史ら錚々たる人材を輩出した。更に、池田静江、篠原(岩田)つね子(小倉)いつ、草野(齊藤)まさ、石関(桜井)志げ、永島淑、高野(野村)トラの七名は、平成元年の調査で生存が確認されているようである。いずれも優に一〇〇歳を超える勘定となり(平均一〇五歳)、激動の明治・大正・昭和の三代を思うとき、驚嘆の念に打たれる。

明治三五年の波乱の一回卒業式と優秀な一回卒業生を思うとき、高女のその後のたくましい発展の礎が据えられたのだ、という感を強くする。松樹館には、一回生二八人のうち、卒業成績物として図画を提出した一三人の作品が保管されている。背すじをぴんと伸ばし、高い品格をそなえた明治の乙女達の息遣いが、清楚な画面から立ちのぼっている。

同窓会だより



紅葉の袋田の滝と五浦海岸めぐり

島方 睦美 (高15回)

薄曇りの十月十四日。久しぶりにバス旅行に出かけました。懐かしい先輩方との同窓会です。

結城つむぎセンターで先づ各々が楽しそうにお買物。借楽園では笑顔で昼食。談笑しながらバスまでの散策と、先輩方ともいつの間にか心が通う想いを感じました。

水戸の近代美術館では、運よく「イタリア絵画名品展」が開催されており、迫力ある多くの作品に圧倒されました。小雨の常磐道を快く走り、

定刻に五浦海岸のホテルに着きました。記念撮影をして、潮風に吹かれても威風堂々と建つ「六角堂」を見おろし、五浦の海を愛した横山大観と岡倉天心が惚けました。

ホテルでは、五十名揃って会食、各室毎のコーラス、先輩方を代表して熊倉先生の日舞、当番幹事の準備された景品と学生時代に戻ったほどの賑やかな楽しい一時でした。

翌十五日は小雨の中、朝市で買い求めた魚をバスのトラックに皆でついで出立。懐かしい童謡の流れる野口雨情記念館で、しばし童心に返り、高萩畳工芸館では、情緒

第39回 京浜地区同窓会

奥山多恵子 (高15回)

高女の京浜地区同窓会は、今年で第三十九回目を迎え、去る七月一日、東京・銀座の「レストラン高松」で開かれました。今回は久々に、高女同窓会長の斎藤先生に、高女からお越し頂きました。

先生は、勲三等瑞宝章を受賞されることが決定しており、お祝いムードが加味された楽しい集いになりました。先生には京浜同窓会として、花束を席上贈呈させて頂きました。会是小池美登子支部長の挨拶

で始まり、斎藤先生、岡村昇治校長先生より挨拶を頂いた後、増村博士先生の音頭で乾杯し、会食に移りました。

集まった方々は、ざっと百人。卒業年も違い、またお互いに、日ごろ接触のない会員が大半年だけに、当初は、遠慮がちにナイフ・フォークを手にする感じがしたが、次第に打ち解け、話が弾んでいき

ました。斎藤先生にタクトを振っていただき、全員で校歌を合唱

したところには、会場は懐かしい学生時代の思い出話一色になりました。

司会と進行は、今回の幹事担当の十五期のひとり、栗原道子さんが行いましたが、彼女は知る人ぞ知るシャンソン歌手。残念ながら、年内で閉店するシャンソン歌手の登竜門「銀巴里」から、この道に入り活躍、淡谷のり子さんにも可愛いがられています。

彼女は、当日もシャンソンの他に、アルゼンチンタンゴを交えて、得意のレパートリーを披露しながら、歌の合間には、岡村校長や増村先生方の話を引き出しました。これ



ある作品と、館長さんのユニークな語りで子育て談義を楽しみました。水量が多く幾筋にも流れる「袋田の滝」は水しぶきを受けて、トンネルを抜けてながめ更に「つり橋」を渡り山肌添いにその横顔までも名残りを借しんでいる様でした。

見学している間は、雨も少しばし遠のき、道に弾ける雨足を車中でと、高崎に着いた時は雨もあがっていました。旅慣れた先輩方に先導され健脚に負けじと御一緒に登って頂きました二日間でした。御世話下さった当番の皆様により御礼を申しあげますと共に、諸先輩方の益々の御健勝



を祈ります。また、人生の門口に立ったばかりの、繁忙期にある同窓生、こんな楽しみ方もあることを心の隅に留められ益々の御活躍を祈ります。

さつき会での還暦旅行

佐藤 和子 (47回)

平成二年は、私達昭和十八年度入学生にとって、大半が還暦を迎える年です。敗戦の時は女学生三年生、戦後の混乱期に四十六回四十七回高一回と三期に別れて卒業した私達は、関西旅行の無い世代で前々から「還暦の同窓会は遠くへ行こうね」と話し合って居りました。

「初夏の北海道、道南を訪ねる旅」を企画し、二百数十通の手紙を送った後、どれだけ反響があるか心配でしたが、四月末日のメ切には四十名、佐藤の当番三人、ホッ

八幸会の一泊旅行

日比野れい子 (高8回)

平成二年七月一日、雨の音にも似た川の流る、迫る木立の山々、此の湯の里水上温泉水上館に懐かしい顔が次々と集いました。卒業以来三十余年にして実施された初めての「一泊同窓会」です。梅雨空を吹き飛ばす様に若やいだ声がロビーに響き渡り、どの顔も女学生当時に返って居ます。当初は創立九十周年のお祝いを兼ねてという予定が天皇陛下ご崩御で一年繰り延べされ今回の運びとなったとの事、当

番幹事の方々の御苦労が忍ばれます。其の為か少人数の集いと云ったのが惜しまれます。夕食時一同に会しての宴会場では、ホテル側の暖かい心尽くしの御料理で始まり定番の自己紹介、近況報告等の進行でしたが、話題豊富な味のあるお話を聞かされて、楽しさ苦しさ等、これ迄の人生経験をふまえての重みを感じさせられ、家族の中心的存在

で頑張っている事をつくづく感じました。私達の年代は、一見子離れが済みそうに思われがちですが子供は在学中、年令的にも親の面倒と経済的精神的な負担の一番重い年代でもあり、今回の様な機会が有っても出席するには障害が有り、特に一泊ともなると仲々出づいのが実情です。かといつて、全て済ませてからとなると今度は自分自身で思う様に動けなくなるのでは、複雑な心境なのです。然し今回欠席された八幸会の皆様、色々な友達と出合い心のリフレッシュをするのも又、明日への活力源としてストレス解消に繋がる事も有ります。気になる白髪や皺も消えるかも知れません。次回の同窓会には是非御出席下さる様、お会いしたく思います。

翌朝、ロビーには晴々とした顔が再会を約束して集い、各々のグループに別れ登山や

と致しました。不参加の方の添え書きにも、昔が惚けられて懐かしく拝見しました……と。六月十二日の早朝五時に、駅東口をバスで出発、団体なので、藤岡のNトラベルさんが添乗して下さい、安心。羽田空港で東京組と合流、快晴の空の旅一時間十五分で函館空港着、バスでトラピスチヌ修道院へ向いました。次に空からクッキリ見えた五稜郭、函館戦争の歴史の跡を見学し「凌雲亭」で昼食、旧函館区公会堂、聖ヨハネ教会など、明治の木造西洋建築を見ました。夜は函館山に登って、巨大な魚の尾びれに寶石をちりばめたような「函館の夜景」の美しさに感嘆し、湯の川プリンスホテルに一泊。

十三日、バスで大沼公園へ。駒ヶ岳が見える湖で、モーターボートに乗って楽しみ、昭和新山では地球の造山活動に目を見張りました。洞爺湖から中山峠と初夏の花々の咲く



原野を走り、夕方大通公園に面した超モダンな札幌後楽園ホテルに到着。夕食はグループに別れて札幌の街に出、行った先でまた会ったりして、なかなか楽しい一夜でした。十四日、十時半まで市内を自由散策し、小樽へ出発。北一ガラスを見て美味しい御寿司を食べ、運河を散歩。帰路のバスで、夕焼空を見ながら、椰子の実、校歌などコーラス。皆上手でした。羽田で東京組と別れ、高崎帰着九時半でした。

旅行 BUS 平成3年度 旅行のお誘い

◎参加費 ¥34,000円

秋の黒部峡谷・美ヶ原高原・白樺湖めぐり 一泊の旅

10/13日 高崎—松本城—黒部ダム—美ヶ原温泉(泊)

10/14日 美ヶ原高原美術館—白樺湖—清里芸術村—高崎

◎申込方法 9月2日(月)10時~15時まで(母校椎樹館事務室)

☎(0273)62-2585

多数のご参加をお待ちしております。



同窓会 総会開催の お知らせ

新緑の候、同窓生の皆さまには益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

下記により、総会を開催いたしますので、お誘い合わせのうえ多数ご参集くださいますようお願い申し上げます。

—記—

日時 平成3年5月1日(水)
12時より

場所 母校 椎樹館

日程 12:00~13:00 昼食

13:00~13:40 総会

14:00~15:00 講演

講師 山岸 松子 先生

「蜻蛉日記を読んで」

(元国語科教諭)

会費 1,000円

※期別幹事は必ず2名は

出席ください。



平成3年度行事予定

5/1(水)	総会および講演 母校椎樹館
10/13日 ~14日	研修旅行 黒部峡谷、美ヶ原、白樺湖方面
2/2(日)	新年会 高崎ビューホテル
3月上旬	新会員入会式 母校椎樹館
3月下旬	会報6号発行

※会議 (1)期別幹事役員会 6月、9月
(2)常任幹事会 随時
総会、旅行、新年会へ皆様お誘い合わせて御参加ください。なお旅行についての申し込みは9月2日(月)10時~15時まで母校椎樹館事務室で受付けております。

平成三年二月三日、高崎ビューホテルで高女同窓会新年会が開かれました。女学校14回から高校27回まで、御来賓の方を含めて総勢一四一名の方に御出席をいただき盛大な会になりました。



美人に変身した新年会

平成3年 新年会報告

に演奏していただき、お正月の雰囲気を一気に盛りあげていただきました。

しばらく歓談の後、ヨーガのお話と簡単な実践指導を高14回の友永さんにしていただきました。インドパンジャブ地方の衣装に身を包んだ彼女と一緒に、ウエストを細くする法、顔のシワをとる法等々楽しく体を動かすうちに、一同たちまじ素晴らしい美人に変身してしまいました。

この席で当番期のひきつぎが行われ、高14回から高15回にバトンタッチされました。

最後に齊藤会長の指揮で校歌を斉唱いたしました。盛りだくさんのスケジュールで三時間があっという間に過ぎてしまい、和気藹藹のうちに閉会となりました。皆それぞれ来年の新年会での元気を再会を約して、三三五五帰途につきました。大勢の方が参加して、お互いの健康を祝し、御挨拶を交わす一年の始めの年中行事が定着してとても素敵だと思えました。

泉 久美 (高14回)

◎母校の近況 (平成3年4月1日現在)

- 教職員の異動
 - 退職 宮下幸男(公仕)、吉江康江
 - 転任 松村哲夫(富実)
 - 上原頼子(高東)
 - 着任 尾崎和民、西岡良幸、笠原弘江(事務)、須本邦男(公仕)
- 平成3年度 新入生 405名
- 新卒業生の進路状況
 - 国立 87、公立 28、計115名
 - 国公立短大 26、私立4年生 258
 - 私立短大 98、各種専修 14、就職 14 以上

◎同窓会新入会員

422名(平成3年3月1日入会式)

同窓会維持費中間報告 (H.3.3.14)

【収入の部】	前年度繰入金	355,253円
	維持費納入金	2,180,830円
	(手数料差引き)	
	預金利息	45,600円
計		2,581,683円
【支出の部】	会議費	11,815円
計		2,569,868円
今後支出の予定(会報椎の樹第5号印刷代及びその他)		1,016,000円
【差引残高】		2,569,868円
		-1,016,000円
		1,553,868円

◎同封の振込用紙で維持費をお願い致します。—年間 1口 1,000円—

90年史の同窓生購入者数 (H.3.3.5現在)

卒業 回数	購入者 割当数	購入者 購入数	卒業 回数	購入者 割当数	購入者 購入数	卒業 回数	購入者 割当数	購入者 購入数
1	0		35	10	3	高15	40	24
2	0		36	20	21	高16	40	11
3	0		37	20	29	高17	40	13
4	0		38	20	18	高18	40	10
5	0		39	20	20	高19	40	22
6	0		40	20	31	高20	40	11
7	0	2	41	20	13	高21	20	7
8	0		42	20	11	高22	20	6
9	0		43	40	45	高23	20	9
10	0		44	40	65	高24	20	4
11	0		45	40	10	高25	20	8
12	0		46			高26	20	5
13	0		47	40	30	高27	20	7
14	0		高1			高28	20	3
15	0		48			高29	20	1
16	0	1	4年 修了	40	15	高30	20	3
17	0	2	高2			高31	20	8
18	0	3	高3			高32	20	7
19	0	2	附設 中1	40	54	高33	20	7
20	0		高3			高34	20	2
21	0		高4			高35	20	6
22	0	4	附設 中2	40	41	高36	10	2
23	5	5	高4			高37	10	3
24	5	2	高5	40	45	高38	10	4
25	5	4	高6	40	13	高39	10	7
26	5	4	高7	40	41	高40	10	13
27	5	4	高8	40	41	高41	406	406
28	5	7	高9	40	43	高42	412	406
29	5	10	高10	40	18	高43	422	405
30	10	4	高11	40	42	高44	420	362
31	10	4	高12	40	44	高45	406	399
32	10	2	高13	40	30	その他		74
33	10	13	高14	40	47	合計		3,106
34	10	8						

90年史頒布につきましては、多くの方々にご協力いただきましてありがとうございました。なお、若干残部がございますので、ご希望の方は学校までお申し込みください。☎(0273)62-2585



写真は新年会での雅びな演奏

椎樹祭に参加しましょう

来る五月二十五日(土)二十一日(日)に行われる第十一回椎樹祭に同窓会工芸関係が参加、椎樹館にて展示されることと思えます。

どうぞこの機会を交流の場として幅広く作品をお寄せいただきまして、楽しい展示会になりますよう、そしてお誘い合わせで大勢の方々が、ご鑑賞下さいますよう併せてご案内申し上げます。

※連絡先 吉村晴子
☎(0273) 二二二三五四一

お知らせ コーナー

投稿欄の登場

「椎の樹」第六号より投稿欄を設けたいと思っております。

四季折々、事に触れ、人への思い、様々な思いを文字に託していらつしやる方も多く思っています。そつと温めていらつしやる作品、またこれから生まれ出る作品を、ご投稿下さい。詩、俳句、短歌等、形式は問いません。同窓会の方々の幅広いご投稿を期待しております。

〒370高崎市稲荷町二〇
高崎女子高校同窓会
☎(0273) 六二二五八五

あとがき

昨秋には、即位の礼が行われ、平成三年を迎えました。長かった「昭和」に代わり、「平成」の響きにもようやく馴染みを感じられるようになりました。

「椎の樹」も早いもので第五号をお届け致します。

開校九十周年を記念して特集号とした第四号につき、今回は「斎藤先生叙祝賀集」の様子を、お慶びを新たに

同好会を 作りませんか

「椎の樹」第四号に、90周年記念演奏会で、同窓会合唱団が素晴らしい歌声をご披露した記事が紹介されました。できれば引き続き練習がしたいというご希望があるようです。厚い年令層を持つ高女の同窓会の良さを生かして、同好会という形が作れたら良いですね。コーラスに限りません。各種スポーツ・文学・琴・謡・マンドリン・ギター等々いろいろな所で活躍していらつしやるたくさんの方々の同窓生が縦横のつながりを持ち、楽しいひとときがもてるようになればと思います。積極的に世話をしてくださる方、どうぞご連絡下さい。

※連絡先
〒370高崎市稲荷町二〇
高崎女子高校同窓会
☎(0273) 六二二五八五

- 編集委員長 吉野烈子 (高9回)
- 第五号編集委員
吉村晴子(高5) 東野芳子・中島真澄(高12) 岸数子・海上栄子(高13) 海老原洋子・横谷美代子・武井久子・清水弘子(高14) 原勝代・島方睦美(高15) 川口貞子(高16) 武井治子・前田房子(高19)